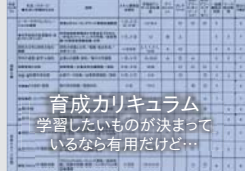


URAかるた ～URA業務の理解・共有を促進するゲーム教材

山本 祐輔 (京都大学 学術研究支援室, yusuke@hontolab.org)



シンポジウム・研究会
友達作りには良いけど...



育成カリキュラム
学習したいものが決まってるなら有用だけど...

URA業務の情報共有・スキルアップのイベントに参加したけれど、

- URAって最近話題だけど、結局具体的な仕事内容がイメージできない...
- どんなスキルや知識を学んだらよいか分からない...
- 他のURAと本音で議論したいけど、そんなチャンスが見つからない...

URAイベント・カリキュラムを有効に機能させるためにも、「URA業務の理解」「URA業務に役立つ実質的な意見交換」を促進するツールが必要です。



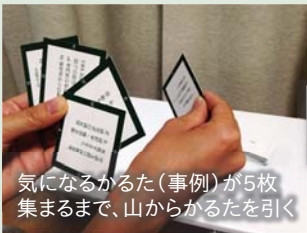
学習のきっかけ作りや相互研鑽促進のため、ゲーム教材を開発!!



URA業務に関する典型的シーンをかるた化

レベルアップのための学習を始めるには、URA業務がなんたるかを知らなければ、身に付けるべきスキルや学習方法を決められない。また、URA業務のざらなるレベルアップを図るには、事例を通じたURA同士の議論が必要。そこで、様々なURAにインタビューをして、URA業務の迷い所をかるた化した。

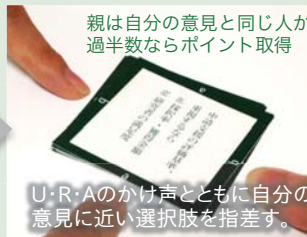
URA業務について楽しく・遠慮なく議論できるカードゲームをプロトタイプ



気になるかるた(事例)が5枚集まるまで、山からかるたを引く



親はかるたをプレイヤーに提示。各人は設問の答えを考える。



親は自分の意見と同じ人が過半数ならポイント取得

U・R・Aのかけ声とともに自分の意見に近い選択肢を指差す。

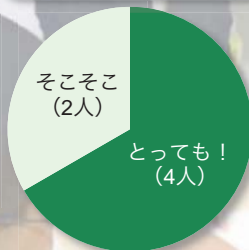


回答について雑談タイム。終了次第、親を隣のプレイヤーに

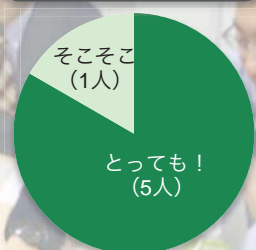
プロトタイプ体験アンケート結果 from 京大URAs

まとめ:「今度は、色んな部署・大学のURAとゲームしてみたい!」

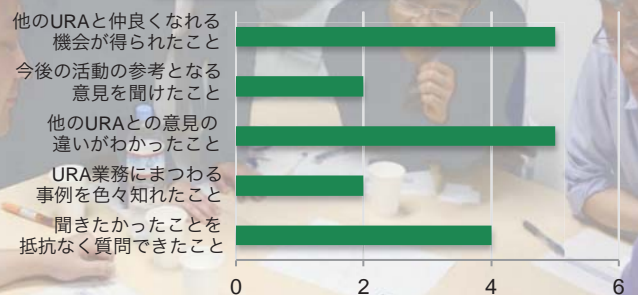
Q. 楽しかったですか?



Q. ためになりましたか?



Q. どんな点がよかったですか?



Q. 何か一言お願いします!

- かるた(の文言)をプレイヤーが作成できたら面白いですね
- 掛け声によってメンバーとの距離感が近くなった
- URA業務の課題を認識すると同時に、自分の意見をまとめ、及び反対側意見を知ることができた!
- 議論の盛り上がり度を時間やでた意見の多さで点数化できると良い
- 少ない質問にじっくりと意見交換するバージョン、たくさんの質問を短時間で討論するバージョンがあると面白いかも
- かるたを大きくしてください!
- 他大学のURAとやってみたい!